

2/8

全ての民主的学友は民学同に結集せよ！

昨夜、何が起こったのか... 事実はこちらだ！

デモグラフィック

NO.369

民主主義学生同盟
市大文部機関紙 2/8

1. 昨日の経過 → 統一会議、社会学同の鉄パイプにより50数名が負傷

昨日、大学協賛会と二部自治会の合見は9時より、14日の合見の継続として行なわれたが、9時15分すぎ突如として、ヘルメット、鉄パイプで武装した統一会議、社会学同のデパート部隊が会場の2番教室に乱入し、全席の学友、教官に襲いかかる。『デパート部隊』、そしてバリケードを築いて出口を二ヶ所だけにし、要入を厳しくし、レンガetc.を投げ、2番教室に向かい襲撃する。この襲撃により、20数名が重軽傷を負った。一旦引きあがった彼等は、見張りを立て、正門を閉鎖し、18日0時20分頃再度『日共粉砕、民青粉砕、封鎖貫徹』を叫び、多数の説得を無視し、経済研究所前で二部のBOXから出てきた学生に襲いかかり、建物に逃げ込んだ学生を襲うべく建物を壊し、『時間はいくらもあるから、ゆっくり料理しよう』などと呼びながら窓ガラスを破り中へ突入せんとする。そして2時前突入を成し済し、見張りを張りあがらせ、彼等の鉄パイプにより50数名が重軽傷を負い、止に入った法学部の某教官が顔に打撲傷を負った。救急車が来ては、走り去った。

2. 統一会議、社会学同の狙いは何か — 大学、コンミュニズム(学生権力の樹立)単独管理であり、大学解体である。

かかる事態の彼等の狙いは何か、それは多くの学友から解体に対して批判を浴びることを恐れたに他ならない。二部自治会と協賛会で封鎖反対が確認されるのを恐れ、彼等は、会見を粉砕するためにやって来たのである。その為に鉄パイプが必要だったのである。自己の暴力を正当化するために、民青のリンチに対し自己批判を求めた。等々のまことしやかな口実をつくったが、まさに『口実』である。彼等の狙いは何か、大学改革、政府批判と対する学友の要求を、大学改革の道に引き込むのではなく、強制的な暴力は関係のない問題を拡大し、強制的に、学友の要求とは関係なく、強制的に無政府状態をつくる事である。即ち彼等は教官だけを2番教室から出して、学友に襲いかかるつもりだ。これは教官を襲うと自分の責任は免れえないのでまずいと知り、学友だけを殴れば、反代々木対民青の衝突としてフル新が描いてくれるが故に、自己の暴力も相対化されることをあてこんだものであり、そのことによって、学友にデパートの争いだから君達は関係がない。と、学友が学内暴力に対し批判し、起ち上げさせないようにつくすることによって、この政治生命を維持しようとしているのだ。更に大学を破壊することによって、『学は管理能力を失ったから、文部省が管理する』という国家権力を客観的に助けている。反動界に口実を与え行動隊導入に力を貸しているのだ。このことは彼らの『学コンミュニズム論』から必然的に生み出されるものだ。その事は東大に於て、

統一会議、社会学同は許さず！ 破滅への道＝学内デパートを断じて許すな！

民学同の下、統一全学連を再建しよう！